

NY 研修医 報告書

金沢大学附属病院 2 年次研修医 大家陽生

・ PACE 大学での研修

Lower Manhattan に位置する PACE 大学にて 2 回に分けて 6 日間の研修を受けました。

前半は問診や身体診察で使う英語の決まったフレーズを授業形式でトニー講師から学びました。「Do you use cannabis or any other drugs?」という問診のフレーズが文化の違いを感じさせられ印象に残っています。

後半は模擬患者さんに協力いただき実際に問診の練習をしました。私は L と R の発音が下手で毎回のフィードバックで L と R の発音について注意を受けました。日本では英語の発音についてきちんと指導を受けることはなく、自分の発音が悪いということにすら気づかなかったのでとても貴重な体験となりました。

・ 由水南さんのワークショップ

18 歳で金沢から NY へと渡りブロードウェイで活躍されている由水さんとともに体を動かしながら英語や NY で学ぶためのマインドを学びました。ポジティブなエネルギーがコミュニケーションを取るうえで大切だということを言葉だけでなく南さんのふるまいから思い知らされました。

・ Phelps 病院での ACLS 講習

Anne 講師に 2 日間にわたって ACLS を学びました。Anne 講師は知識と熱意に溢れており実りある講習となりました。ルート確保が難しい患者に対してドリルを用いて骨髄から薬剤を投与するシミュレーションが特に勉強になりました。「経骨髄的に投与できない薬剤はありますか?」といった難しい質問にも「基本的に経静脈的に投与できる薬剤は投与可能だけど、アデノシンは個人的に難しいと思います。半減期が短いので心臓に到達する前に失われてしまいます。」といったふうに豊富な知識を活かして丁寧に教えていただきました。ACLS の知識や技術は今後医師として働くうえで間違いなく必要になるため、研修医となりその必要性を感じたうえで学ぶ ACLS 講習は興味を持って取り組みました。

・ Shadowing にて岩原誠先生のクリニックを見学

小学生で NY に渡り、お父様が開業されたクリニックを引き継いで医師として働いておられる岩原先生のクリニックを訪問させていただきました。マンハッタンに位置するクリニックには様々な職業の日本人の方が岩原先生を頼って来院されていました。隣のニュージャージー州からはるばる来られる方もいるそうです。日本から遠く離れたニューヨークという地で働く日本人と彼らを診療する医師の人間ドラマをこの目で直接見ることができ、忘れられない経験となりました。

・森下先生のラボ見学

マウントサイナイ医科大学の精神科教授である森下博文先生のラボを見学させていただきました。森下先生は Lynx 遺伝子という脳の可塑性にブレーキをかける遺伝子を発見した先生です。私達医学生、研修医の質問にも意図を汲み取って丁寧に答えてくださりとても親しみやすい先生でした。ニューヨークに渡り研究成果をあげるということは素晴らしいことですが、その背景にある研究費獲得の苦勞も知ることができ非常に興味深かったです。

・ALT の OB の方と食事会

日本でかつて働いていた ALT の OB の方とお食事をしました。基本的にアメリカ人の会話の中に我々日本人が混ぜていただくといった形で早口でちょっとしたスラングも多く理解に苦勞しました。これまで私が聞いた英語が日本人に理解しやすいようにスローテンポでわかりやすく行われていたかを思い知らされました。私はアメリカンフットボールの観戦が趣味なのですが ALT の OB の一人と去年のプレイオフの試合について語り合い、非常に良い思い出となりました。やはり趣味の話で海外の方と盛り上げられるのはいいものですね。

・最後に

私はこのニューヨーク研修に参加することができて本当に良かったと思っています。

社会人として仕事が始まるとどうしても仕事や自分の興味のある世界だけに目を向けがちになり、目に見える世界が狭くなってしまいます。その結果なんとなく世界のすべてを知っているような気持ちになり謙虚さが失われてしまいます。僕自身少しそういった面があったと思います。ニューヨークでメトロポリタン美術館の美術品を見たとき、ブロードウェイでミュージカルを見たとき、その他多くの場面で自分の知らない世界が多くあるのだと感じました。また美術鑑賞にしてもミュージカルにしても確かに面白いのですが、その歴史背景や要点がわかれば更に面白いのだろーなと思うと悔しさを感じました。まとめるとニューヨークにて自分の無知さを思い知らされたということです。

ニューヨークに滞在している間、私達が危険な目にあわないよう見守ってくれている Andrew の保護を常と感じました。この地域は危険だという情報を教えてくれたり、夜間は

2人以上で行動するよう忠告してくれたりと感謝してもしきれません。最後になりますが引率をしてくださった Andrew 講師、ならびにこの研修を企画してくださった研修医・専門医総合教育センターの皆様感謝を申し上げます。

